

ジャパン・オープンサイエンス・サミット2021セッション E6

CHORUS フォーラム

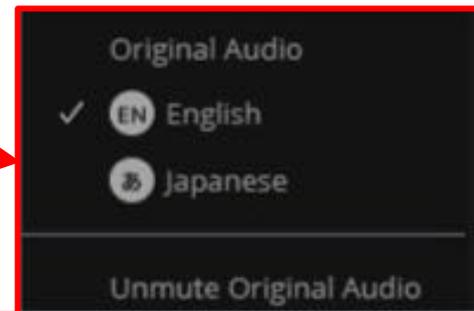
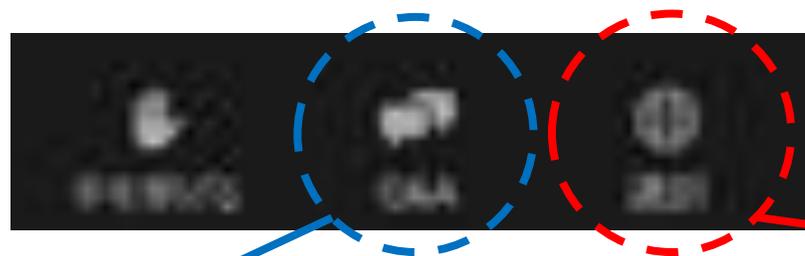
– 研究ワークフローにおけるFAIRデータ（ファンディングから論文出版まで）

座長：小賀坂康志(JST)

2021年6月18日
10:00-11:30 (JST)

CHORUS

ご質問 / 同時通訳



- ✓ パネルディスセッションでは、参加者の皆様からのご質問にパネリストが回答します。
- ✓ ご質問をQ&Aチャットのウィンドウに書き込んで下さい。その際、どのパネリストへのご質問かも書いて下さい。
- ✓ 時間の関係上、全てのご質問に回答できない場合があります。ご理解いただきますようお願い致します。

- ✓ 同時通訳が利用可能です。お聞きになりたい言語を選ぶか、またはオリジナル音声を選択(“オフ”を選択)して下さい。
- ✓ 同時通訳機能は、ブラウザ上のZoomでは使えないことがあります。アプリ版のZoomをご利用下さい。

Japan Open Science Summit 2021

日程：2021年6月14日（月）-19日（土）

会場：完全オンライン開催

セッション：各機関や発起人によるセッション（合計22セッション 各90分-120分）を開催期間内に実施。

個人発表セッション：オープンサイエンスに関わる活動報告など(16日(水) 10:00-12:00)

協賛機関セミナー：スポンサーによるセミナー(6/14(月)、6/15(火)、6/17(木)、6/18(金) 12:00-13:30)

【ゴールドスポンサー】

SPRINGER NATURE



WILEY

HITACHI
Inspire the Next

【シルバースポンサー】

ELSEVIER



【主催機関】



CHORUS ゴールドスポンサー -



シルバースポンサー



趣旨

- オープンサイエンスに関する各種ポリシーやガイドラインが整備されつつあり、これを反映した研究ワークフローが、学術コミュニケーションのエコシステム全体で形作られようとしています。
- その上で欠かせない考え方が研究データの取り扱いにおけるFAIR原則（Findable, Accessible, Interoperable and Reusable）であり、これをどう実装していくかが今後の課題と言えます。
- 研究者は現在、データ管理計画（DMP）を作成しデータを共有可能にすることを、ファンド機関、所属機関、論文投稿先ジャーナルおよび関連研究者から、義務化ないしは推奨・要請されています
- FAIR.こうした状況を踏まえて、JOSS2021におけるCHORUSフォーラムでは、ファンディングから論文出版・引用に至る各段階でどのようにFAIR原則を実践していくか、マルチステークホルダーからなるパネリストによる講演および議論を通じて考えます。

パネリスト (登壇順)

- 谷藤幹子(物質・材料研究機構(NIMS))
「研究機関におけるデータ管理およびFAIR原則への対応」
- 中島律子(科学技術振興機構(JST))
「JSTにおけるファンディングデータ管理フロー：効率、正確さ、ルール準拠」
- Shelley Stall(アメリカ地球物理学連合(AGU))
「FAIRデータの実践：論文根拠データの保存と引用の重要性」
- Howard Ratner (CHORUS)
「CHORUSとFAIRデータ」
- 小賀坂康志(科学技術振興機構(JST) / 座長)
「RDAファンド機関グループ報告」
- 南山泰之(国立情報学研究所(NII) / セッションE7座長)
「JOSSセッション「FAIRなデータキュレーションの実践」の紹介」

プログラム

1. 開会挨拶
2. 講演
 - 谷藤幹子(NIMS) [10分]
 - 中島律子(JST) [10分]
 - Shelley Stall(AGU) [10分]
 - Howard Ratner(CHORUS) [10分]
 - 小賀坂康志(JST) [2分]
3. パネルセッション [30分]
4. 講演
 - 南山泰之(NII) [5分]
5. 閉会挨拶